

受賞 赤崎 勇 氏

初めての受賞！ ～ 南九州市出身 ～

本市出身の赤崎勇・名城大学終身教授へ2014年のノーベル物理学賞が授与されることが決定しました。

高輝度の青色発光ダイオード(LED)を開発した天野浩・名古屋大学教授、中村修二・カリフォルニア大学サンタバーバラ校教授との共同受賞です。

3人は、LEDの中でも製作が技術的に難しく、20世紀中の開発は無理とさえ言われていた青色LEDの開発に取り組みました。結晶の素材としてほとんど見向きもされていなかった窒化ガリウムに注目し、青い光を出すのに必要な高品質の「窒化ガリウム」の結晶化に赤崎氏と天野氏が世界で初めて成功しました。さらに中村氏が独自に開発した装置を使って、極めて明るい青色LEDの開発に成功し、世界中の研究者を驚かせました。

この開発により赤、緑、青色の光の3原色がそろう、組み合わせによりあらゆる色を表現することができるようになりました。フルカラーのディスプレイやブルーレイディスクの開発にもつながり広く使われ、また、省電力で長寿命の照明により新しい時代を切り開いたと評価されています。

ノーベル賞

ダイナマイトの発明者として知られるアルフレッド・ノーベルの遺言に従って1901年(明治34年)から始まった世界的な賞。物理学、化学、医学、生理学、文学、平和、経済学の6分野で顕著な功績を残した人物に贈られるものです。

2014年(平成26年)までに864人、25組織

が受賞しており、日本人では1949年(昭和24年)に湯川秀樹氏が物理学賞を初めて受賞、2012年(平成24年)の山中伸弥京都大学教授の医学生理学賞以来となり、今回の受賞で物理学賞10人、化学賞7人、医学生理学賞2人、文学賞2人、平和賞1人の22人が受賞しています。



赤崎勇氏と陵子夫人

市は、平成24年12月1日に開催した南九州市市制施行5周年式典において、赤崎勇氏の功績を称え、市民栄誉賞を授与しました。



祝
ノーベル物理学賞受賞
南九州市知覚町出身
赤崎 勇 様

赤崎勇氏は、南九州市知覚町出身で、発光素子研究が極めて難しいといわれる高輝度青色発光ダイオードの開発で初めてノーベル物理学賞を受賞した日本人です。祝賀の場を設けたいと思います。

ノーベル物理学賞が赤崎勇氏へ授与されると発表された翌日には、各庁舎、文化会館に受賞を祝う懸垂幕が掲げられました。また、知覚まち商店街においても、祝賀ポスターを製作し、店頭に張って地元出身者の受賞を祝福しています。



ノーベル物理学賞

鹿児島県出身者として

赤崎 勇 (あかさき いさむ) 氏

生年月日 昭和4年1月30日

(85歳)

鹿児島県川辺郡知覧町
(現・南九州市) 生まれ
愛知県名古屋市長在任

【略歴】

昭和10〜27年

鹿児島市の大龍小学校、旧制鹿児島第二中(現・甲南高校)、旧制七高(現・鹿児島大学)を経て京都大学理学部化学科卒業
神戸工業(現・富士通テン)入社

// 34〜38年

名古屋大学助手、講師、助教に就任

// 39年

松下電器産業東京研究所基礎研究室長に就任

// 56年

名古屋大学教授に就任

平成4年

名古屋大学名誉教授、名城大学教授に就任

// 22年

名城大学終身教授に就任

【受賞歴】

ハイシリッヒ・ウエルカー金メダル

京都賞(先端技術部門)

エジソン賞

文化勲章

※その他、国内外の受賞多数。

ノーベル物理学賞受賞を祝して

郷土の誇り

南九州市長 霜出勤平

赤崎勇先生、ノーベル物理学賞受賞決定、誠におめでとうございます。心からお喜び申し上げます。

青色発光ダイオード開発の功績が世界的に認められ、今回ノーベル物理学賞という最高の賞を受賞されるといふことで、南九州市民としてだけでなく日本人としても大変喜ばしく、郷土の誇りであると思っております。

今や青色発光ダイオードの実用化により世界のありとあらゆる場面でLED機器が使われており、その功績は、計り知れないものがあると感じ入っております。

青色発光ダイオード開発の過程では、先生が自分の目標を見失うことなく、何度も失敗を繰り返しながらも諦めない精神力で研究を続けられたとお聞きし、そのご努力に敬服いたしますとともに、南九州市の若い世代の方々に夢を与えてくださったことに対して深く感謝の意を表し、本市から第二の赤崎教授が誕生することを願っております。

赤崎先生には、ご健康に十分留意され、今後ますますのご活躍を祈念いたします。

次代を担う子どもたちに期待

南九州市教育長 中村洋志

本市知覧町出身、赤崎勇先生の「ノーベル物理学賞受賞決定」との朗報は、南九州市民はもとより、県民や国民にも大きな希望と勇気を与える快挙でありました。過去の実績からすれば、遅きに失した感すらありますが、今回の受賞を心から祝福いたします。

受賞以来、数々のエピソードが紹介されていますが、人格形成に大きな影響を与える幼少期をこの自然豊かな環境の中で過ごし、毎日暗くなるまで野山を駆け回っていたという経験が、「興味あるものへの集中力」、「諦めない心」や「探求心」を培い、先生の研究の原動力になっているのではないかと勝手に解釈しています。

子どもの頃からの好奇心を失うことなく、最後まで諦めないという地道な行動が、大きな成果を生み出すという、すばらしいメッセージにもなりました。まさに郷土の誇りであり、次代を担う南九州市内の子どもたちの中から、いつの日か、日本や世界を動かす、赤崎勇先生に負けなような人物が出てきてくれることに心から期待しています。